

気道狭窄に対する硬性気管支鏡下気管ステント留置術の

麻酔管理に関する検討

京都府立医科大学麻酔科では、気道狭窄に対して気管ステント留置を必要とした患者様を対象に、気管ステント留置術における麻酔管理に関する観察研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

・ 研究の目的

気道狭窄に伴う気管ステント留置術は手術前から手術後までの期間に合併症を認めるリスクが高く、時に補助循環の使用が必要になるなど、高度な麻酔管理を必要とします。この研究では、下記期間において当院にて気管ステント留置術を受けられた患者様の周術期の麻酔情報をもとに適切な麻酔方法を検討し、患者様にとってより安全な麻酔を提供することを目的としています。

・ 対象となる方について

2014 年 1 月 1 日から 2024 年 10 月 31 日までの間に、京都府立医科大学で気道狭窄に対する気管ステント留置術を受けられた方

・ 研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から 2025 年 12 月 31 日

・ 情報の利用を開始する予定日

利用開始予定日：医学倫理審査委員会承認日（2024 年 12 月 25 日）

・ 方法

当院呼吸器外科において気管ステント留置術を受けられた方で、診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。取得した情報の関連性を分析し、気管ステント留置術の際の適切な麻酔管理について調べます。

・ 研究に用いる試料・情報について

情報：病歴、検査結果（血液検査・画像検査）、麻酔チャート、周術期経過記録 等

・ **個人情報の取り扱いについて**

患者様のカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者様を直ちに特定できる情報は削除します。また、この研究の成果を発表する場合にも、患者様が特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 麻酔科学教室 内藤 慶史）の責任の下、厳重な管理を行い、患者様の情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・ **研究資金及び利益相反について**

利益相反とは、寄附金の提供を受けた特定の企業に有利なようにデータを操作する、都合の悪いデータを無視するといった、企業等との経済的な関係によって、研究の公正かつ適正な実施が損なわれるまたは損なわれているのではないかと第三者から懸念される状態をいいます。本研究に関する利益相反については、京都府公立大学法人の利益相反に関する規程、京都府立医科大学の臨床研究に係る利益相反に関する規程等にしがって管理されています。

本研究の実施にあたり、特段の研究費は要さず開示すべき利益相反はありません。

・ **研究組織**

研究責任者

京都府立医科大学 麻酔科学教室 内藤 慶史

研究代表（統括）者

京都府立医科大学 麻酔科学教室 内藤 慶史

研究担当者

京都府立医科大学 麻酔科学教室 山田 知見

お問合せ先

患者様のご希望があれば参加してくださった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2025 年 12 月 31 日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学麻酔科学教室

職・氏名 講師 内藤 慶史（ないとう よしふみ） 電話：075-251-5633

受付可能時間帯 月曜～金曜 ・ 9 時～17 時（年末年始を除く）